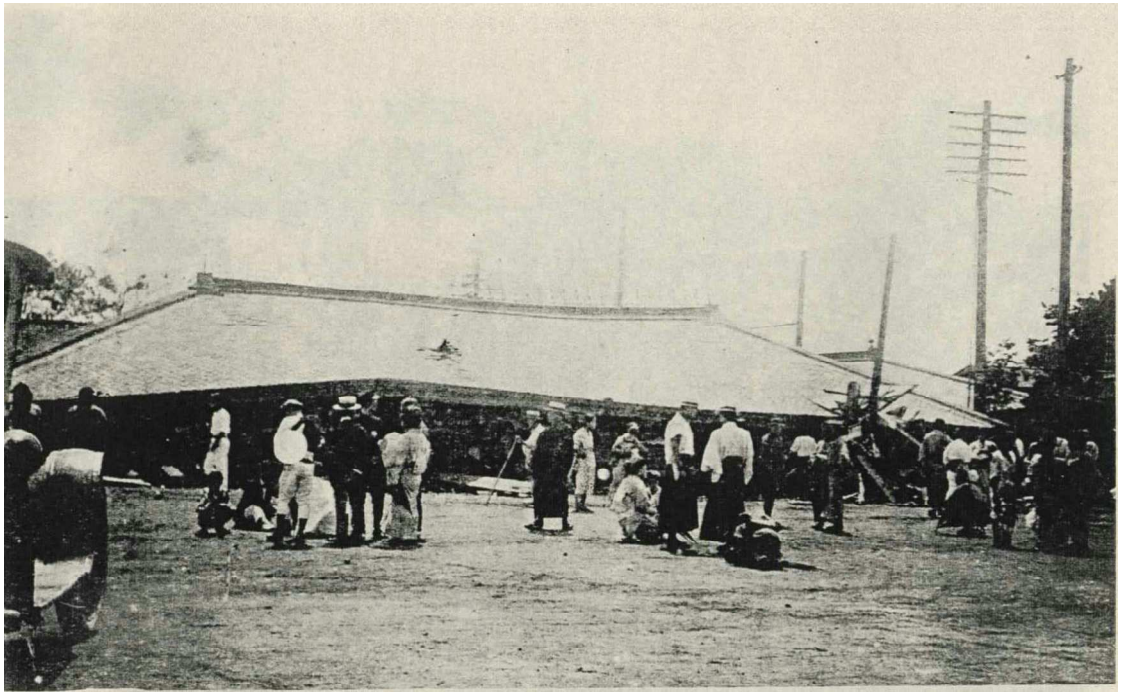
子ども文書館だより ふみくら

ふじさわしもんじょかん
藤沢市文書館
〒251-0054 神奈川県藤沢市朝日町12-6
TEL 0466-24-0171 FAX 0466-24-0172
藤沢市文書館 検索
ここをクリック！

第３号 ２０１２年３月３０日発行



藤沢駅の全壊（大正12(1923)年9月1日午後1時頃）

上の写真は、今からおよそ90年前に起こった関東大震災で、すっかりつぶれてしまった藤沢駅の被害を撮したものです。今年3月11日に東日本大震災が起きた当日は非常に長く揺れていたので、びっくりした方も多いと思われますが、この時の藤沢は大きい揺れや津波に襲われました。東京や横浜のように大火災が発生することはありませんでしたが、遊行寺などのお寺や、小学校の多くもつぶれました。また、家の下敷きになるなどで、およそ160名の方が亡くなりました。この震災によって、遠藤地区では、谷川沿いにあった集落が、集落ごと高い土地へ移ったほどです。 関東でも、近い将来大きな地震が起きるといわれていますので、今から避難の仕方などを考えておくことが大切になりますね。（中村）

私たち文書館の仕事　（第３回）　資料を保存する

私たちは、藤沢市に残されたいろいろな資料を持っています。それらの資料がなくなってしまうことがないように、注意していかなければなりません。

③資料を集めて残す

文書館では、さまざまな記録(時代や形を問わず、人々が記してきた情報のことで、紙に書かれたものだけでなく、録音テープやＣＤも含まれます)を集めて、保存しています。

このうち、江戸時代より前に書かれた資料の多くは手で漉いた和紙に墨で書かれています。和紙はとても丈夫な紙で1000年以上も保存できることから、世界中の文化財の修復にも使われています。しかし、不注意に保管しておくと、紙を食べる虫によって穴だらけにされたり、湿気を多く含んでしまって紙が固まり、開かなくなることがよくあります。

明治時代からは、西洋の紙の作り方が入ったことで、紙が一度に大量につくられるようになりました。ところが、西洋の紙は、長い年月の間に、紙がゆっくりと焦げたように黒茶色になっていき、ついには粉のように細かく砕けてしまいます。この現象を酸性劣化といいますが、英語で「スロー・ファイア(ゆっくりとした火災)」とも呼んでいます。

これは、インクなどの滲みを止めるために紙の中に入れた酸性物質と紙の化学変化です。また、紙に含まれた酸性物質はその紙をいためてしまうだけでなく、まわりにある紙にまで移ってしまう(「酸の移行」といいます)という現象が起きます。酸の移行を防ぐために、資料を中性紙や弱アルカリ性紙という特別な紙でできた封筒などに入れたり、一枚になっている地図などであれば、透明なポリエステル・フィルムにはさんでしまうという、資料を長く保存するための方法をとっています。(中村)

左の写真は、酸を移行させないように弱アルカリ性の保存箱に、資料が中に入った中性紙の封筒を並べて入れてあるようすを撮したものです。(『20周年記念文書館業務と利用案内』から転載)

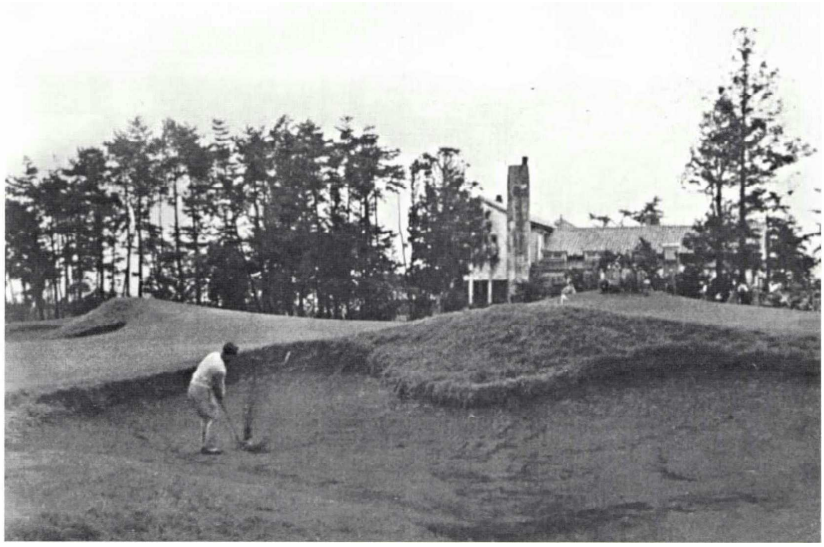
ふじさわの今を伝える本　第１回

「グリーンハウス物語ー戦禍に消えた名門ゴルフ場ー」

今からおよそ８０年前、善行駅や聖園女学院などがある一帯に、ゴルフ場「藤澤カントリー倶楽部」がありました。このゴルフ場は、関東でも指折りのながめと美しさを誇るコースで、『鞍馬天狗』の作者・大佛次郎や、鵠沼の東屋旅館の主であった長谷川欽一などがプレーしていましたが、戦争と敗戦後の混乱の中で閉鎖されてしまいました。一方、そこでクラブハウスとして使われていた建物は、今日までさまざまに使われてきました。それが、善行地区の県立体育センターの敷地内に残っている「グリーンハウス」で、今でも地元の方に食堂として親しまれています。この本は建物の歴史を「善行雑学大学」の方々が、多くの資料を参考にしてまとめたものです。

このクラブハウスは、アントニン・レーモンド(1888-1976)という、東ヨーロッパのチェコという国で生まれた建築家によって建てられました。彼は日本とアメリカで500以上の建物を造りましたが、グリーンハウスはシンプルな切妻屋根(2つの斜め面だけの屋根)と湿式(壁塗りなどで水を使う方法)の白い外壁・青緑色の瓦屋根、アーチ型の開口部などが特にすぐれているとされる「スパニッシュ様式」の建物です。

まず第１部「藤澤カントリー倶楽部とグリーンハウスのあゆみ」では、日本でのゴルフ歴史と地元の状況や、藤澤カントリー倶楽部の開設から現在のグリーンハウスのようすにいたるまでのあゆみを、文章や年表、そして多くの写真などで取り上げています。



紹介した本の表紙(左の写真、松田直樹氏原画)と18番ホール、グリーン手前からのバンカーショット(右の写真)。倶楽部ハウスの北側の写真は珍しいものです。(『グリーンハウス物語』より転載)

次に第２部「ゆかりの方の思い出」では、ゴルフ場に関わりのある方々の証言や文章をのせています。いろいろなお話から、ゴルフ場やグリーンハウスが、地元の人たちと多くのつながりと協力でなりたっていたことや、地元もゴルフ場の恩恵があったことがわかります。

そして第3部では「キャディーマスター大塚文造氏の思い出」として、昭和10(1935)年6月にゴルフ場のキャディーマスターに就任した大塚文造さんに光を当てています。大塚さんは、昭和18年10月のゴルフ場閉鎖の日には最終プレーを見届け、海軍に明け渡すまで閉鎖の作業をされた方です。その方の記した4冊の手帳の内容が紹介されています。

この本には、藤澤カントリー倶楽部の全ホールを今の地図に落とした「ゴルフ場復刻図」(うらに「グリーンハウスを拠点としたウォーキングマップ」つき)が入っています。コースレート(かつてあったゴルフ場の各ホールの距離などを紹介したもの)も入り、当時の様子を考える上で非常に参考になります。文書館や市内４か所の図書館で読めます。(中村)

クイズ・写真に見る藤沢（第２回）

下の写真は、大正５(1916)年に開設された、藤沢市内のある鉄道の駅の構内を撮したものです。この駅の名前は何でしょうか？(解答は次号)

（落合威雄家文書）

(ヒント)現在、この駅の南口にある交番近くには駅の開設の記念碑が建てられています。また、駅の北口は「Ｃ―Ｘ」として開発しているところです。（中村）

※題名の「ふみくら」とは、本や記録を納めるところをさす古いことばです。